
五月雨day ~ 雨の日は憂鬱？ ~

彩瀬姫

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

五月雨day雨の日は憂鬱？！

【Nコード】

N1605H

【作者名】

彩瀬姫

【あらすじ】

遊園地に行く予定だった、響と大翔。大翔は遊園地にあまり行きなくなかったと聞いて。「響×大翔」シリーズ第5弾！！

（前書き）

ボーイズラブです。苦手な方はご注意ください。

ザァーザァー

今日は恋人の大翔と遊園地に行く予定だったのに、この雨のせいで中止。

せっかくのデートが…。と、落ち込んでいる響である。

で、今日もまた、僕の家で過ごしているわけですが。

「雨すごいね…」

「ああ」

そっけない返事にムツとする。もっとショックな顔してくれてもいいのにね……。

大翔は平然とした顔で窓の外を眺めている。

「ちよつと、こっちに来いよ」

大翔がおいでと手招きをする。僕は翔に近寄る、が……。

「こっちって何処？」

「こっちってこっつ」

大翔に指差されたのは、大翔の膝の上。

そこに座れというのだろうか？

聞けずに黙っていると、無理矢理僕を大翔は膝の上にのせた。

「ぎゃっ！ちよつと大翔おー！？」

慌てている僕を見て、大翔は人の悪い笑みを見せる。それが怖くて、大翔から離れようとするが、後ろから力強く抱きしめられているので逃げだせない。

「今日はずっと一緒にいる約束だったろ？だから今日は、離してやらない」

「！！」

俺は目を見開く。

そんな俺を楽しそうに見ている大翔。

「せっかくの休みなのに、響は遊園地に行きたいって言うし」

なぜか、大翔は俺から目をそらし、口を尖らせている。

せつかくの休みだからこそ二人一緒に行きたいと思うのに、何がいけないのだろうか？

分らないと首をかしげると、しょうがないとばかりに溜息をつかれる。

「遊園地なんかいったら、目立つだろ？」

「それは確かに、大翔カッコいいし……」

賑やかな所はやっぱ大翔嫌いなのか…、デートするなら静かな公園のほうがいいのか？

さつきまでの、モヤモヤとしたものが薄れてきた。

「違うだろ。響が可愛いんだろ？」

「ええ？」

大翔は目を逸らしながら言う。

「お前、可愛いんだから目立つんだよ……響に視線が向いてるの気付いてないのか？」

僕が目立つ？

そんなわけないと言うのだが、

「そんなんだから心配なんだ。もういい、今日はずっと俺の腕の中、決定だから」

さつきよりも強く抱きしめてきた。

「ええ？えええ？」

大翔に力には勝てず、淡い抵抗となったのだ。

「大翔おっつ」

「うん？」

後ろを見ると、意地悪な笑みで笑っている。多分、慌てている僕の反応が面白いのだろう。

「大翔の意地悪っ」

こうなったら、とことん拗ねてやるんだからっ。

プイっと顔を背けて、口を固く締めた。そんな僕に、大翔は頬を突いてきた。

「ふっ」

くすぐつたい。なんかのスイッチを押しているかのように突いてくる。

それを気にしている隙に、大翔は僕に顔を近づけてきて、

「ふうーっ」

「ギャー！ー！！」

突然、僕の耳に息を吹き込んできた。驚いた僕は、ピクツと跳ねる。思い切って振り向くと、やっぱり大翔は面白そうに笑っている。

「うう……」

むっとしていると今度は、「チュっ」と音を立てて、キスをしてきた。

キスで宥めようとしているのだろう、が今の僕は許すつもりなんてない。

「おいっ。響？」

「……………」

またまた僕は、大翔から顔を背けて、口堅く閉じる。
知らないんだからねっ！！

いつもそんなんで宥められるような子供じゃないんだからねっ！！
「拗ねるなよ。な？」

「……………」

大翔の焦っている姿を見ると、こっちが面白くなってきた。

「ふっ。大翔ってやっぱり可愛い」

そっとうと、大翔はばつの悪い顔をする。

「意地悪な大翔は許してあげないけど、優しい大翔なら許してあげる」

「優しくすればいいのか？」

「うん」

すると、大翔は僕の頭を優しく撫でてきた。目を細めて愛しむように僕を見てくれている。

それだけでも嬉しいけど、今してほしいことはそれじゃない。

「ねえ？今日は泊まっていてよ」

「ええ！？」

あまりの驚きように、ちょっとショックを受けてみたり……。

「そういうことじゃなくて、ただ、手をつないで一緒に寝たいと思っただけだけど、ダメなの？」

「いいよ」

じゃあつともう一つ要望をしてみる。

「今日は親いないから、一緒にお風呂入ろうよ！！」

ふざけて言ってみると、大翔は顔の前で手を横に振る。

「駄目だ！！絶対無理だからな」

なんて言うか大翔、初々しいなあー。

……実は一緒にお風呂に入ろうと本気で言っただけで、そこまです否定されるとやっぱりショック……。

一緒に手を繋いで寝てくれるだけでも嬉しいから、このままでもいいのかもしれない。

——何より、今この時、大翔と一緒にいることが幸せだしねっ。

（後書き）

こんにちは、彩瀬姫です♪

今回の響と大翔はどうだったでしょうか？

いつもあまあまなので、次回はちょっと変わった感じ（？）に書いてみようかなと思います。

来月も頑張るので、よろしくお願いします！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1605h/>

五月雨day～雨の日は憂鬱？～

2010年11月20日03時30分発行